

# 「作業療法」

特集

## 宇治おうばく病院の取り組みと「作業療法」の役割について

精神科治療の一翼を担う作業療法士。

宇治おうばく病院では30名を超える作業療法士が働いています。しかし、一般には作業療法士がどのような役割を果たしているのかが、十分に理解されてはいません。

そこで今回は、3人の作業療法士に、日々の取り組みなどについてお話をうかがいました。



中川 衛 (なかがわ まちる) / 作業療法士



黒木 祐里 (くろぎ ゆり) / 作業療法士



金坂佳奈子 (かねさか かなこ) / 作業療法士

「落ち着ける時間を持つ」ことで、回復を助ける仕事

**Q** 一般に、「作業療法士」という言葉は知っていても、どんなことをする仕事なのかわからないという人は多いと思います。たとえば、同じリハビリテーション専門職である「理学療法士」と、どこが違うのか？ まずはそこから教えてください。

**金坂** 理学療法士は、基本的な身体機能の回復をおもに担う仕事ですね。それに対して、作業療法士が担う役割はもっと広いのです。作業療法の「作業」とは、一言で言えば「人が生活していくうえで必要なことすべて」を指します。ありとあらゆる作業のうち、患者さんが「必要なこと・したいこと」に焦点を当てて、その作業ができるようにサポートしていくのが、私たち作業療法士の役割です。

**黒木** ただ、作業療法と一口に言ってもいろんな領域があります。私たちは精神科の作業療法士なので、精神障害者のケアとしてのリハビリを担っています。精神科での関わりが深いのは作業療法士の特徴で、身体機能のリハビリを中心とする理学療法士との違いでもあります。

**Q** 精神科領域の作業療法士は、たとえばどういう役割を担うのでしょうか？

**中川** 精神科の病気というのは、うつ病であれ統合失調症であれ、脳機能が適切に働いていない状態です。具体的には、意欲が低下したり、集中力が続かなかったり、不安にかられたり、余計なことばかり考えて落ち着かなかったり……。そういう状態が続くことで、さらに脳がうまく働かなくなります。作業療法を行うことによって脳機能の働きを適切な状態に戻すことが、私たちの担う役割と言えます。